

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372800215		
法人名	社会福祉法人 長寿会		
事業所名	グループホーム みどり		
所在地	愛知県碧南市油洲町3丁目50番地		
自己評価作成日	令和 元年10月24日	評価結果市町村受理日	令和 2年 1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaipokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=2372800215-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 元年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護保険制度創設前から運営しているグループホームの先駆者的存在であり、併設の特養施設と共に地域の老人介護を担ってきた。法人全事業所において家族の意見、要望を聴き出すための「家族アンケート」を実施しており、アンケート結果は集約し、対応策・目標を設定して家族に報告している。家族からの意見で「声掛けは、丁寧な言葉遣いを・・」に対し、真摯に対応している。 地域交流と利用者・家族の活性化を目指した「RUN伴(ランとも)」活動に協賛しており、複合施設をたすきリレーの立寄り場として提供している。認知症カフェも複合施設合同で運営しており、地域社会に貢献している。本年3月に発生した虐待事件を教訓に、全社的にマニュアルや研修の在り方を見直し、認知症高齢者へのケアの理解に取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は共有できている。	法人名(長寿会)から採った「長寿をたのしむ」を法人・事業所理念として掲げている。全職員を対象に評価表(基準書)を記入させ、サービス向上を図っている。家族アンケートにも趣旨を掲載し、理念を伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	年一回秋に開催される地域の公民館祭り、地区で開催される子供みこし祭りへは、毎年参加している。今年度は包括支援センターと協力して、地域内にて認知症高齢者声かけ訓練を行う。	地域交流を目指して「RUN伴(ランとも)」活動に協賛している。認知症啓発の声かけ訓練や公民館祭りに作品展示を行っている。併設の特養施設と協力して認知症カフェの開催も続けており、地域交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護者教室・認知症カフェ(毎月第4日曜日13時～15時開催)において、介護職員が、施設実践している認知症ケアを地域一般の方に対して指導を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ご利用者様の様子、季節行事などの支援を実践している写真等(資料)を作成し伝えている。ご家族様からの意見も取り入れるようにしている。ご利用者様の様ご家族様の出席率は毎回9割の参加がある。	奇数月に市(地域包括支援センター)・民生委員・利用者家族を招いてホームの状況、行事結果・計画を説明し、意見聴取を行っている。毎回家族の出席率が高く、意見交換の場としても機能している。	会議メンバーに地区代表(区長・町内会長等)が加われば、より交流が増し協力も得やすくなるのが期待できる。会議で、「目標達成計画」の開示と進捗状況の報告を提案したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	碧南市地域包括支援センターをはじめ、市内にある三カ所の包括支援センターへ「介護者教室」「認知症カフェ」等の参加等の呼びかけなど連携を密にしている。	施設長及び管理者は、市主導の「サービス機関連絡協議会」の役員に就任しており、市の行事に積極的に関わっている。管理者は「認知症サポーター養成講座」の講師も引き受けており、協力関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修会(身体拘束廃止委員会)に職員が参加し、身体拘束についての理解を深めている。玄関の鍵は夜間帯等以外は原則施錠はしていません。しかし、状況等によっては少しの時間帯だけ鍵をかけてしまうこともある。	隣接特養施設と合同で、毎月「身体拘束・虐待廃止」に関する検討・研修会を開催しており、意識は高い。平成31年3月に、ホーム職員による虐待事件が発生したこともあり、従来にも増して、一層厳格な意識付けが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修会に参加し、理解を深めている。常に全職員が意識をもって対応するように心がけている。今年度より施設独自で高齢者虐待防止マニュアルを作成し、各職員へ運用の徹底を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係職員と連携をとり、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には親切かつ丁寧に説明に努めている。特に利用料金等については制度が複雑なため、より詳細に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様及びご家族様に対して施設独自のアンケートを毎年実施し、施設運営に関することやご意見などを反映する仕組みづくりに取り組んでいる。	毎年秋、全社的に「家族アンケート」を実施しており、利用者・家族からの意見・要望の把握・集約を行い、対応策を家族に報告している。利用者への声掛けの言葉遣いなど、些細な意見にも真摯に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回定期的にグループホーム会議では、管理者、計画作成者、在宅部門責任者が参加し、各職員とのコミュニケーションする場として、また意見・提案を言いやすい環境づくりに努めている。	毎月開催の職員会議では、主に利用者の介護に関する意見交換が行われており、着座位置の変更案や施設改善案が検討されている。役員の内身の施設長が参加しており、人事・処遇の要望にも対応できる。	介護職の心身の健康に向けての取り組みも兼ね、増員や配置替えなどの見直しを図られることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の資質等について客観的指針に基づいて評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修強化につとめ、職員を育てる取り組みとして特に新人職員に対して独自の研修プログラムを実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部・内部研修への参加はできているが、他施設との交流する機会作りが実践できていない現状がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望等について、常に傾聴の姿勢にて聞き取りを行い可能なかぎり、要望に沿うようように対応し、信頼関係を構築し、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望をできるがぎり、受け入れ、日頃の様子を伝えるようにしている。サービス利用前には、必ず施設見学をしていただくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族様の状況や希望を理解し、求めている支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心身に障害や疾病があったとしても、その人らしい生活習慣をできるかぎり尊重しながら、自立できるように支援することを念頭に職員とご利用者との信頼関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族様ならではの役割の支援を援助していただきながら、ご利用者を支えている。外出するご利用者様も多くみられる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ出掛けることが多くなってきているので、ご本人様の要望等をしっかりと受け止めて関係性が途切れないように支援している。外出支援では、ご利用者様からの意見をもとに外出先を選定している。	ホーム近隣出身の利用者が多く、家族の面会は多い。隔週を目途に周辺の公園・寺院へ散歩に出かけており、声を掛けられることも多い。地域の祭りに参加の際、知人と再会し、交流が再会した例がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の交流する機会をつくるために、レクリエーションなどは仲間どうしを意識するような働きかけをしている。また、職員を含めて支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してしまうと、連絡等する機会がないが、同法人内併設特養施設へ入所されたご利用者様などは、適時合同で行われる行事等で交流する機会がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望や、以降に添った対応に心がけている。ご本人だけでなくご家族様とも連携協力を伺いながら適時対応している。	会話が成り立たない利用者にも常に話し掛け、眼の動き・仕草から意向や想いの把握に努めている。食欲の有無、着座姿勢などを注視し、体調の良否を推し量り、必要な事項は連絡ノートに記載して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握に努め、本人及びご家族様から、さまざまな機会を通じて昔生活されていたときのさまざまなエピソードを尋ねるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご利用者様の心身の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループホーム会議にて計画を作成するにあたり、計画作成者を含めた他職種間で現状のさまざまな課題等を話し合いをし、ケアプランへ反映させている。	管理者が計画作成担当者を兼ねており、概ね3ヶ月毎にモニタリングを行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。介護計画の更新は、原則的には介護認定期間毎に行っている。	介護認定期間が2年～4年程度に分布しており、大枠の介護計画になっている点から、毎月の検討を反映した数ヶ月単位での評価・更新が望ましい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に一日の様子を記録している。職員間でご利用者様の様子、体調等の変化に適切に対応するために、申し送りの徹底を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族様の状況を把握し、その時々に合わせて支援ができるよう可能かぎりできるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年地域の公民館祭りへ参加している。公民館祭りは毎年、グループホームご利用者が作成した作品を展示させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者の多くは、施設嘱託医のクリニックへ受診しているが、専門的な治療が必要な場合には、かかりつけ医と連携しながら他医療機関への受診を適切に行っている。	受診希望者は、併設特養の嘱託医の往診日(週1回)に合わせて受診している。専門医への受診は原則家族引率となるが、情報提供等の支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している特養看護師に適時相談し、指示をうけたり、必要に応じて早期に主治医等への診察を受けるなどの適切な治療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院のソーシャルワーカーと介護支援専門員との良好な連携ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、関係者と適時相談しながら方針を共有している。重度化した場合を想定して、併設特養への入所申し込み等についての支援を行っている。看取り支援体制についてはまだ充分ではない。	本年度の目標達成計画に「看取りに関する知識向上」を掲げ、将来的には看取りを行う方針で臨んでいる。計画達成には至っていないが、看取りに関する研修を随時実施して、職員の意識向上を図っている。	利用契約時に、重度化した場合の意思確認やホームの方針を説明しておくことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急法の研修会を行っている。特に、初期対応についての訓練(AEDの操作等)についての訓練に重点を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っている。可能なかぎり、ご利用者様も参加した訓練を実施している。	年2回の防災訓練のうち1回を併設特養と合同で実施している。飲食料備蓄も、利用者3日分の備えがされている。居室が2階であることや歩行に障害を持つ入所者が多いことから、避難時の誘導に課題を感じる。	夜間の避難誘導など、職員が少数な場合の避難方法として、併設特養や地域との連携が図られることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけと温かい気持ちで接するように心がけています。	利用者は全員女性であるが、尊厳・自尊心・羞恥心を損なわないよう、声掛けにも配慮している。挨拶などのコミュニケーションから、その日の様子を確認し、元気のない時は寄り添って声掛けするように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様からの要望を行事等に反映できるように、各職員と全ご利用者様が信頼関係を構築できるように取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の思いを尊重した対応をしているが、時に職員側の都合により、希望に添わないときもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者個人の服装等については、意向を確認しながら、身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事ができるように、ご利用者様と職員が可能な限り一緒に食事準備(片付け等を含む)を行っている。ご利用者様の嗜好も考慮した献立としている。	本年4月から主菜調理は外注に移行したが、ホームのキッチンでご飯や汁物を調理している。調理委託によりメニューが充実し、利用者からの評価も良くなり、職員からも「介護に振り向ける余裕ができた」と、好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分補給量等の把握に努めている。便通をよくする作用としてヨーグルトなどのメニューに取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいを実施。就寝前には、歯磨き、入歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の排泄パターンを把握し、自立にむけての排泄介助に心がけている。	「自分でできることはできるだけ継続してもらう」を基本に、職員は見守ること、待つことを心掛けている。排便は、食べることから改善することを目標に、繊維質のものやヨーグルトなど、献立から見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムを把握し、食事メニューの工夫と、ヨーグルトなどの便通により食品をとるように献立の配慮をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は原則14時から行っている。時に行事等や職員の配置状況によっては、適切な入浴支援がきびしい場合がある。	浴室は総檜作りであるため、カビ発生・腐触も多く、壁面は定期的に張り替えを行っている。浴槽は広いが、羞恥心への配慮や安全確保から1名ずつの入浴にしている。季節に合わせて柚子湯や菖蒲湯の配慮もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の個別性を尊重した対応をしている。夜間帯の巡視を約1時間ごとに行い、安心して良眠していただけるように適時声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が全ご利用者様がどのような薬を服用しているかを情報共有し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等を的確に把握してそれぞれの役割ごとに活躍していただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人ひとりの希望に沿った外出支援は現状できていない。外出の機会としては、ご利用者様全員で外出する機会がある。	日常的に、2～3名を引率して隣接の公園や寺院に、おやつ・飲物を持参して散歩に出かけている。企画外出では、全員で出かけられるように配慮し、外食や水族館に出かけている。個別の希望外出は、目標達成計画にも掲げて今後の課題としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、原則ご家族様にお願いしている。必要に応じては、施設側にて金銭の立替をすることもある(受診代等に限る)。職員とともに買い出しをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望すれば、電話をしていただいている。手紙については、現状やり取りするまでに至っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースについては、ご利用者様の意向を取り入れている。季節感を感じられるような雰囲気づくりにも配慮している。	木の温もりと障子戸で日差しが和らぐ中、職員と利用者が協力して作った作品やイベント時の写真が掲示され、昔の学校のような心地よい雰囲気が感じられる。作品も季節感のあるものを毎月作成し、秋には地域の文化祭に出展している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様は普段は共用スペースであるリビング(ソファ有)にて過ごされているが、1人になりたいときなどは、玄関先にあるソファを利用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力のもと、自宅で長年利用されていた本人様のなじみのある家具等をできるがぎり居室に用意していただいている。	トイレ・ベッド・洗面台・クローゼットが完備し、板張りの床で統一されている。板張りの構造は利用者の動きが把握しやすく、夜勤者への労働軽減に繋がっている。経年劣化した壁紙の剥がれなどが目立つ。	予算などの検討され、心地よい居室空間へ、早期の修繕への対応を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室内にトイレが設置されていて、階段、廊下には手すりが設置している。また、階段の上り下りの負担軽減を目的として施設内にエレベーターを設置し、必要に応じて利用している。		